

2018年度事業報告書

2018年4月1日から2019年3月31日まで

特定非営利活動法人ヒカリカナタ基金

1 事業実施の成果

現在まで小児性白内障等の手術を行った子供達の人数は、モンゴル3人、キルギス95人、ミャンマー8人、ネパール14人の合計120人になりました。

ネパールでの事業については、巨大組織である公益財団法人ヤマト福祉財団と共に大きな力を借りながら事業を進めておりますし、ミャンマーでの事業は、認定NPO法人日本・ミャンマー医療人育成支援協会の長年培ったノウハウを提供していただきながら順調に実績を上げることができております。

そして令和元年度新たに取り組む計画として、カンボジア小児眼科医療プロジェクトを始動いたします。この新規事業についても、医療福祉事業において今大変話題の認定NPO法人ジャパンハートさんと共同で取り組むことが決まっております。

このような海外での事業運営は、今まで実績のある大きな組織と連携をとることによって進めておりますので、安定した成果を出すことが出来ております。

国内での事業として、任意団体時代から進めております、点字ブロックの利用に関する啓発活動についても、目を見張るような成果が出ております。10年前までは世界発祥の地である岡山県においても、ほとんどの県民の皆さんは発祥の地であることも、この器具が何に使われるかも認識されていない状況でした。今では、我々が進めている点字ブロックの内容が、全国の小学校4年生の教科書にも採用されましたし、岡山県内であっても各繁華街に設置してある点字ブロックの周りには自転車や荷物が置かれ雑然とした環境でしたが、かなり改善されたように思います。また、我々が3月18日を点字ブロックの日と制定し、全国的に啓発活動を行った結果、今年の3月18日の0時から24時までの24時間の間、インターネットのGoogleのトップページにこの点字ブロックが採用され全世界にも発信されました。我々の活動によって視覚障害者に対する優しい文化が根付いているような実感を感じております。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の 人数	受益対象者の 範囲及び人 数	支出額(千円)
発展途上国における視覚障害者の視力の改善に関する事業	8人の小児白内障患者の眼内レンズ挿入手術を実施	2018年10月10日から18日まで	ミャンマー	15人	視覚障害者 8人	1,400
発展途上国における視覚障害者の視力の改善に関する事業	2箇所のある学校で、アイキャンブを実施	2018年12月9日から10日まで	ネパール ダディン郡	22人	現地の学生 456人	2,100
発展途上国における視覚障害者教育施設への支援と関係団体との連携	竹内昌彦理事長による講演会の実施	2018年12月11日	ネパール カトマンズ メディカル カレッジ	11人	現地の医療 従事者 80人	80
発展途上国における視覚障害者教育施設への支援と関係団体との連携	公益財団法人ヤマト福祉財団理事長による講演会の実施、運営	2018年12月9日	ネパール カトマンズ 日本人会、 商工部会共 済講和サロ ン	11人	現地の一般 商工人 60人	80

発展途上国における視覚障害者教育施設への支援と関係団体との連携	視覚障害生徒の特別授業を実施している保育園から高校までの学校へ点字用紙と文房具の寄付	2018年12月11日	ネパール ラリトプル市	22人	現地の学生 200人	761
発展途上国における視覚障害者の視力の改善に関する事業	小児性白内障の手術費を送金	2018年5月から12月まで	キルギス ビシュケク	6人	視覚障害者 24人	457
その他この法人の目的を達成する為に必要な事業	点字ブロックの日制定9周年記念啓発活動	2019年3月18日	JR岡山駅前広場	200人	一般市民 5000人	450
その他この法人の目的を達成する為に必要な事業	点字ブロック世界発祥の記念碑定期清掃活動を行っている 岡山市立操山中学校の表彰と記念日の式典開催	2019年3月18日	アークホテル岡山	20人	一般市民 150人	452

2018年 ミャンマー活動報告(小児眼科プロジェクト)

【参加者】竹内昌彦 谷口真吾 竹内直人 松浦広司 伊達元秀
中川美登里 (ヒカリカナタ基金)
岡田茂(岡山大学名誉教授) コーディネーター
認定 NPO 法人 日本・ミャンマー医療人育成支援協会への委託事業

【日程】2018.10月10日～18日(成田経由)

10日: 出発
11日: AM ミャンマー大使館表敬訪問
PM 手術打ち合わせ
執刀医 Dr.Than Htun Aung(タントウンアウン)
12日: 手術立ち合い 国立ヤンゴン眼科病院
8人の小児白内障の眼内レンズ挿入手術
13日: 回診立ち合い
15日: あかね基金(准助産師育成事業) 見学 卒業式参加
W-S 航海会議参加
16日: ミャンマー国民健康財団訪問
マッサージ店「ゲンキー」(施術者全員が視覚障害) 訪問
17日→ 18日 帰国

【結果】小児8人12眼の白内障が改善された

【事業費】140万円

ネパール小児眼科医療プロジェクト

2018 年度活動実績

1. ダディン郡アイキャンプ

(1) アイキャンプ

2017 年 12 月に締結した NPO プロフェッショナル・サポート・サービス・ネパール (PSSN:サビナ・シュレスタ代表) との合意書に基づき、12 月 9 - 10 日にダディン郡の以下の 2 校で実施された。

① Shree Dashrathchand Secondary School, Kukhrechaur, Chatradeurali

生徒：182 人 うち 18 人に眼鏡供与

成人：11 人

② Shree Maheshdarma Secondary School, Jeevanpur

生徒：232 人 うち 5 人に眼鏡与

成人：31 人

両校生徒にはヤマトホールディングス社員寄贈の文房具が配布された。

参加者は以下の通り；

③ ヒカリカナタ基金

竹内昌彦 理事長

谷口真吾 副理事長

竹内直人 副理事長

宮本憲男 理事

松浦広司 理事

中川美登里 理事

伊達元英 理事

④ ヤマト福祉財団

瀬戸薫 理事長

渡辺聡 事務局長

原秀美 広報

⑤ PSSN

サビナ・シュレスタ 代表、小児眼科医

レシュマシュレスタ 眼科医

アリナ・サブコタ MD

アパラジータ・マノランジャン 視覚矯正士

アイシャ・カトゥン 検眼士

シャルミラ・アチャリヤ

ラムシャラン・シルワル 現地支援

⑥ 現地サポート

菅沼一夫 コンサルタント

浅見明子 海外青年協力隊

武井ともみ 海外青年協力隊

アミラ・ダリ 講演通訳

ミラン・スベディ

検診結果、写真等は PSSN 報告書（添付一1）、日程（添付一2）ご参照（数値に誤集計あり）。さらなる詳細な PSSN 報告書の提出が予定されている。

(2) 竹内理事長講演会

12月11日カトマンズメディカルカレッジにおいて講演会が実施された。参加者は同カレッジの学生、研修医約50人と、ラリトプール市 Namna Machchendra 校視覚障害生徒約30人が参加した。

(3) 瀬戸理事長講演会

12月9日日本人会、商工部会共催の講話サロンで瀬戸理事長が講演した。参加者は会員他約60人であった。

(4) 学校訪問

12月11日ラリトプール市 Namna Machchendra 校を訪問した。同校は視覚障害生徒を特別授業のほか一般生徒学級での教育を行っている。文房具進呈。

(5) 大使公邸晩餐会

12月10日西郷駐ネパール特命全権大使主催の晩餐会に招待され大使館員、JICA職員が同席した。

2. 全国小児眼科医療情報網構築

(1) ダディン郡

海外青年協力隊員山下さくら氏の紹介で、11月に同氏がかつて赴任したニルカ
ンタ市ニルカ
ンタ校のバルバティ・ポウデル教師に接触し、同教員が集めた目に
障害のあるという生徒18人のインタビューを実施。



バルバティ教師と生徒

(2) ロルパ郡

9月に「おなご先生」の Bam Kumari Budha Magar バム・クマリ・ブダ・マガール（11歳時左目失明義眼）がカトマンズのティルガンガ眼科病院に治療に来た際に協力を依頼して村まで同行を試みるも、モンスーン期のためリバン市までしか到達できなかった。11月に再度訪問した際には、以下の学校を訪問した。

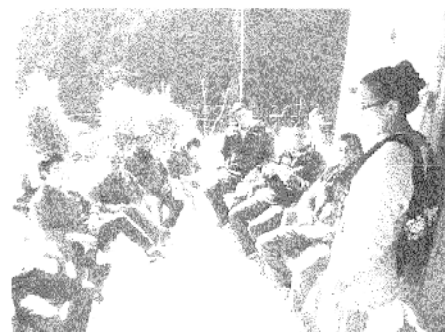
（要診察リスト添付-3）

① Shree Himalaya Fulbari Secondary School

「おなご先生」バム・クマリ勤務。10学年まで398人、教師16人。
角膜損傷2人、弱視1人、化膿1人をインタビューする。



10年生学級



教師



マニタ 8歳 角膜損傷



バム・クマリの自宅で夕食、宿泊

② Shree Luja Oiware Primary School

「おなご先生」 Dhan Kumari Budha Magar ダン・クマリ・ブダ・マガール勤

務。徒歩3時間。5月年まで30人、教師4人。角膜損傷1人。



教師と生徒（夕5時まで待ってくれた）



イシュフル8歳、角膜損傷



ダン・クマリ宅



ダン・クマリ家族（本人不在）

③ Shree Balmandir Primary School

「おなご先生」Kamala Dangi カマラ・ダンギ勤務。5学年114人、教員7人。
左目視力不全1人。

④ タバン診療所

ロールパ郡最奥の村タバンで10年間私設診療所を運営する石田医師（71歳、整形外科）を訪問して協力を依頼。骨折、産婦人科、モンスーン期には消化器系の患者が多い由。タバンはネパール共産党（毛沢東派）が内戦時に臨時政府を樹立した村。



石田医師、おなご先生と



子どもの診察

(3) カビルバストゥ郡

① Banganga Feeder Hostel

2月1日校長に面談し協力依頼。今年の卒業生のうち11人が教師として各校に赴任。



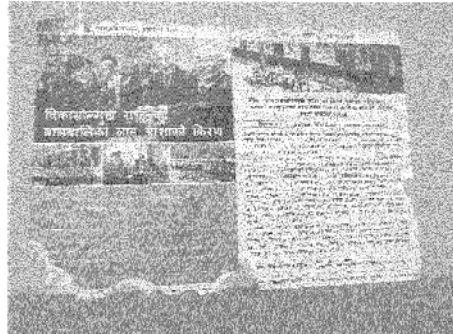
ホステル生徒



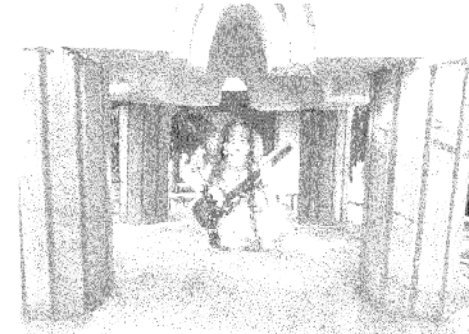
Banganga 校の朝礼（低学年）

② Janachetana Lower Secondary School

2月1-2日「おなご先生」 Sujata Acharya スジャータ・アチャリヤの勤務する学校で23人にインタビュー。バスで1時間の距離のプトワルのライオンズクラブ経営の眼科病院に集団で検診するよう依頼。結果を見てKMCで再診する。診察治療費、眼鏡作成費、交通費、食費を支給するものとする。



11月の配布をスジャータが掲示



学問・芸術の神様サラスワティ（校庭）



ジャスミール 10歳 強度の斜視



アディティヤ 20歳 高圧電流やけど

(4) ドティ郡

Silgadhi Feeder Hostel の Gita Joshi ギータ・ジョシ校長兼寮母に協力依頼。極西部 7 郡から選抜された 20 人の寮生のうち 16 人が教師志望。「おなご先生」 Shrijana Saud スリジャナ・サウド（私立学校教員）紹介の生徒 2 人は近視または遠視であると思われる。



フィーダーホステル



寮生

(5) サリヤン郡

① Shree Dipendra Chautara Primary School

「おなご先生」Kaushila Budhathoki コウシャラ・ブダトキの要請で訪問。インタビューした生徒 4 人はいずれも重度の障碍と認められ、KTM での集団検診に招請。



校舎と教員、生徒



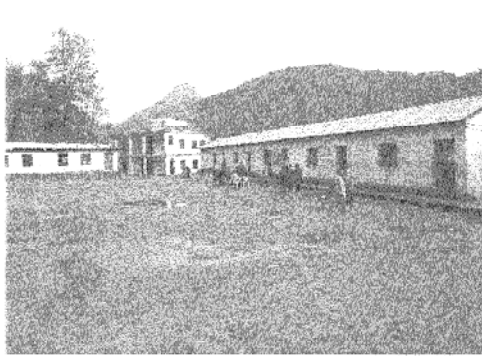
ビノド・パンダ J 12 歳



ディ J・バハドゥール・ダンギ 19 歳

② Tribhuvan Janata Secondary School

コウシラの紹介で訪問した。校長は目に問題のある生徒 30 数名のリストを作成していた。当日は雨天で出席率が悪く、15 人をインタビューした。重度の疾病が認められなかったため、バスで 3 時間の距離にあるトゥルシプールの眼科病院で診察を受けるようにアドバイスした。結果を見て KMC での再診を考慮する。



校舎と授業風景

3. 処方実績

(1) KMC 集団検診

2 月 14 日に上記訪問校のうち重度の疾病と思われる生徒 30 人をカトマンズメディカルカレッジに招聘して集団検診した。受信者並びに診断結果は〈KMC 診断および処方結果 (2019 年 2 月 14 日)〉(添付-4)を参照。費用は診察費が 100 円弱、メガネが 2000 円弱であった。なお、この集団検診にはアイキャンプで来ネ中の秋田日赤協栄会、ロータリークラブ等共催の医療チームの参加を仰いだ。参加いただいた方々は以下のとおりである。

小林真 (小林眼科医院院長)

早川真弘 (秋田大学医学部眼科医)

和田由貴子 (視能訓練士)

北林理恵（小林眼科看護師）
津島ひとみ（小林眼科看護師）
田辺翔太（株ケービジョン）



診察風景

(2) KMC 手術

ダディン郡のアイキャンプ実施校生と受診者4人のうち3人の斜視矯正手術を実施した。また1人は年齢（6歳）を理由に継続診療とした。手術は成功し、術後の視力検査では視力が向上したことが確認された。

なお、KMC マッラ眼科主任教授の好意で、手術費および入院費が免除された。



ロジナ・タマン 12歳



母親と病室で



術後の視力検査



術後屋外で



ビシャル・カドカ 13歳



術後病室で祖母と



術後サングラスをかけて



マビシュ・カクレル 13歳



術後病室で母親と



術後の検査



退院に際し親への在宅管理説明



退院時検査後サピナ代表（教授）と

4. 課題

(1) アイキャンプ

首都に隣接するダディン郡で実施したが、医療機関へのアクセスが容易な地域でも当プロジェクトのような外部からの支援が必要であることが実証された。子どもはキャンプ地での外科手術ができないため、今回のようにカトマンズに招聘して治療、手術を行うことを強られる。

当プロジェクトは今後もアイキャンプを基幹事業として継続するが、より実施効果の大きい地域の選定が肝要と思われる。

(2) 情報網構築

「おなご先生」赴任地を重点的に開拓したが、これら地域がいずれも眼科医療へのアクセスが脆弱であることが主たる理由である。今後ともこの組織を活用することで情報網の拡大を図る。また、憲法改正により地方自治が拡大したことで国から地方自治体に運営が移管されたフィーダーホステル（女子教員養成施設）を地域拠点とすべくアプローチしたが、今後有効な情報網の構築が期待される場所である。海外青年協力隊員の協力はアイキャンプ並びに集団検診時に多大なものがあったが、今後も引き続き協力を得られるよう JICA 事務所に要請する。

なお、NPO 法人日本ネパール女性教育協会（JNFEA）が 11 月に実施した「おなご先生」フォローアップ研修時にホスターを配布し赴任校に掲示してもらったが、反

響が大きかった。また、「おなご先生」情報網を統括、集約するアンカー・パーソンとしてマンジュ・ドジュと契約したが、情報の伝達に機能が見られる。

(3) 現地予備検診

情報網に組み込んだ学校からの要請で眼疾病者のインタビューに赴いたが、今後この予備的検診の精度を上げるために、PSSN には眼科助手の動向を要請している。これによって KMC での精密検診の目こぼれを最小化することを可能ならしめるとともに、軽度患者については地域の眼科病院での治療機会を増やすことにより費用を最小化することが期待される。

(4) 集団検診、手術

アイキャンプを実施したままその後の措置が取られていないことから、再度当該校を再訪して検診を推奨した。また、情報網下の学校での予備検診（インタビュー）で精密検診を勧めた子どもを招聘したものであるが、すでに回復不能の症状を持つものが数例見られた。また、親の同意が得られずに KMC での再診に参加しない子供も数人いた。不参加の理由は、医学への不信があり、いまだジャンクリ（呪術師）による疾病治療に信を置いている習慣が見られる地域におけるものであった。手術を勧めたが親の同意を得られなかったのもこの地域の子どもであった。今後、近代医学への信頼醸成も課題であると思われる。なお、手術した3人の子どもはいずれも首都圏近隣の村在住で、日ごろから近代医学へのアクセスの良好な家庭であった。

(敬称略)

手術を受けた子どもたちの写真(写真は名簿順)

1アバスベコフ・ダニエル 2アブディラスロワ・アイナジック 3アブドゥサリモワ・ナスイカト 4アブドゥマナポワ・ヌルビケ



5アルマズベコフ・エルサル 6アリクバエワ・アマナット 7ババエワ・サイカル 8ボロトフ・スルタン



(写真なし)

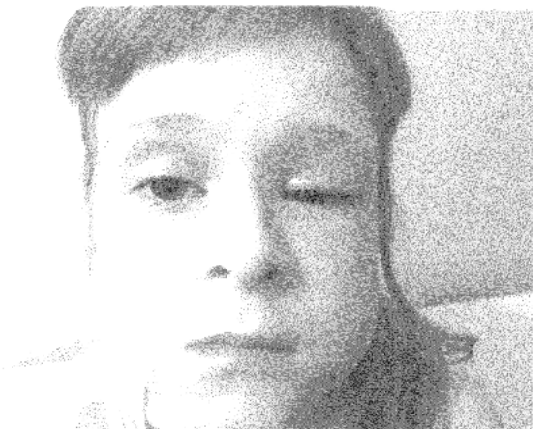


9 ジャニシュベコワ・ナイマ 10 イマノワ・アメリカ 11 カビロフ・ムハメッド 12 クルマンクロフ・アイダミル



13 ラザレワ・スベータ

14 ママジャキポフ・スタルベック



「ヒカ리카ナタ」第10グループ

	氏名	年齢	診断	手術日	手術費
1	ベレコワ・アイシャ	12歳 (2007年10月17日)	白内障を取る手術 (左眼)	12月11日	6000 som
2	アブドライモフ・ウルグベック	4歳 (2015年1月7日)	左眼の下垂縮手術	11月13日	5500
3	ヌルディン・マルス	15歳 (2004年3月25日)	左眼の複雑な白内障手術	12月2日	19,000 som
4	アバイダロフ・アリヤ	9歳 (2010年10月26日)	白内障を取る手術 (両眼)	12月20日	11,000 som
5	カズベコフ・エルザル	3歳 (2016年10月2日)	白内障を取る手術	12月19日	6000 som
6	アスルベコフ・アブドラフマン	10歳 (2010年2月25日)	白内障を取る手術	12月5日	17,000 som
7	エセンクフ・アリヌル	2歳 (2017年9月29日)	白内障を取る手術 (左眼)	12月5日	5000 som
8	サルルベコフ・エミルハン	7歳 (2012年5月23日)	両眼の先天性捻転	11月15日	8000 som
9	アットクル・ベリザット	8歳 (2011年10月3日)	両目の斜視	12月22日	5000 som
10	ムラタリエフ・ナザル	11歳 (2008年5月4日)	両眼の先天性捻転	11月20日	8000 som
11	ウルガジエフ・アイダル	9歳 (2011年4月25日)	緊急手術 (眼の気づけ)	12月2日	6500 som
12	イスランベコフ・バヤマン	2歳 (2017年8月9日)	右下まぶたの先天性逆転の除去	12月19日	13,000 som
13	アイバシエフ・イスラム	3歳 (2016年5月5日)	緊急手術 (眼の気づけ)	12月18日	6000 som
14	ジョルドシエフ・テミルラン	13歳 (2006年8月31日)	緊急手術 (眼の気づけ)	12月22日	12,000 som
					計 = 129,000ソム 1,870\$

手術を受けた子どもたちの写真(写真は名簿順)

1ベレコワ・アイシャ



2アブドゥライモフ・ウルグベック



3ヌルディン・マルス



4 アバイダロワ・アリヤ



5 カズベコフ・エルザル



6 アスルベコフ・アブドゥラフマン



7 エセンクフ・アリヌル



8サルルベコフ・エミルハン



9 アットクル・ペリザット 10 ムラタリエワ・ナザル 11 ウルガジエフ・アイダル 12 イスランベコフ・バヤマン



写真なし



写真なし

13 アイバシエフ・イスラム



14 ジョルドシエフ・テミルラン



特定非営利活動法人ヒカリカナタ基金

活動計算書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

(単位：円)

科目	金額		
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	140,000		
賛助会員受取会費	887,000	1,027,000	
2. 受取寄付金			
受取寄付金	9,312,851	9,312,851	
経常収益計			10,339,851
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
人件費計	0		
(2) その他経費			
広告宣伝費	396,360		
諸謝金	125,000		
印刷製本費	1,305,898		
旅費交通費	1,961,028		
消耗品費	68,991		
キルギス事業費	456,452		
ミャンマー事業費	1,400,000		
保険料	2,700		
支払手数料	12,924		
雑費	51,528		
その他経費計	5,780,881		
事業費計		5,780,881	
2. 管理費			
(1) 人件費			
人件費計	0		
(2) その他経費			
印刷製本費	73,784		
会議費	517,022		
旅費交通費	19,440		
通信運搬費	39,397		
消耗品費	98,118		
管理諸費	558,197		
租税公課	1,200		
支払手数料	22,236		
雑費	53,780		
その他経費計	1,383,174		
管理費計		1,383,174	
経常費用計			7,164,055
当期経常増減額			3,175,796
III 経常外収益			
経常外収益計			0
IV 経常外費用			
経常外費用計			0
V 経理区分振替額			
経理区分振替額			
当期正味財産増減額			3,175,796
前期繰越正味財産額			3,404,745
次期繰越正味財産額			6,580,541

(注) 特定非営利活動促進法第28条第1項の収支計算書を活動計算書と呼んでいます。

特定非営利活動法人ヒカリカナタ基金

貸借対照表

平成31年3月31日現在

(単位：円)

科目	金額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	2,631,752		
事業特定資産	4,100,000		
流動資産合計		6,731,752	
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
有形固定資産計	0		
(2) 無形固定資産			
無形固定資産計	0		
(3) 投資その他の資産			
投資その他の資産計	0		
固定資産合計		0	
資産合計			6,731,752
II 負債の部			
1. 流動負債			
短期借入金	151,211		
流動負債合計		151,211	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			151,211
III 正味財産の部			
1. 正味財産			
前期繰越正味財産		3,404,745	
当期正味財産増減額		3,175,796	
正味財産合計			6,580,541
負債及び正味財産合計			6,731,752

特定非営利活動法人ヒカリカナタ基金

財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 NPO法人会計基準協議会）によっています。同基準では、特定非営利活動促進法第28条第1項の収支計算書を活動計算書と呼んでいます。

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

特定非営利活動法人ヒカリカナタ基金

財 産 目 録

平成31年3月31日現在

(単位：円)

科目	金額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
手元現金	384,800		
郵便振替	6,346,952		
流動資産合計		6,731,752	
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
有形固定資産計	0		
(2) 無形固定資産			
無形固定資産計	0		
(3) 投資その他の資産			
投資その他の資産計	0		
固定資産合計		0	
資産合計			6,731,752
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	151,211		
流動負債合計		151,211	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			151,211
正味財産			6,580,541

前事業年度の年間役員名簿

(平成30年4月1日から平成31年3月31日)

特定非営利活動法人

No.	役職名	氏名	住所又は居所	就任期間	報酬を受けた期間
1	理事長	竹内 昌彦		平成30年4月 1日 ～平成31年3月3 1日	報酬なし
2	副理事 長	谷口 真吾		平成30年4月 1日 ～平成31年3月3 1日	報酬なし
3	同	竹内 直人		平成30年4月 1日 ～平成31年3月3 1日	報酬なし
4	理事	中川 美登里		平成30年4月 1日 ～平成31年3月3 1日	報酬なし
5	同	吉原 洋二		平成30年4月 1日 ～平成31年3月3 1日	報酬なし
6	同	松浦 広司		平成30年4月 1日 ～平成31年3月3 1日	報酬なし
7	同	逢澤 俊枝		平成30年4月 1日 ～平成31年3月3 1日	報酬なし
8	同	近藤 勝彦		平成30年4月 1日 ～平成31年3月3 1日	報酬なし

9	同	岩本 達也		平成30年4月 1日 ～平成31年3月3 1日	報酬なし
10	同	藤田 文雄		平成30年4月 1日 ～平成31年3月3 1日	報酬なし
11	同	松田 奈緒		平成30年4月 1日 ～平成31年3月3 1日	報酬なし
12	同	宮本 憲男		平成30年4月 1日 ～平成31年3月3 1日	報酬なし
13	同	伊達 元英		平成30年4月 1日 ～平成31年3月3 1日	報酬なし
14	監 事	安田 寛		平成30年4月 1日 ～平成31年3月3 1日	報酬なし
15	監 事	松本 達哉		平成30年4月 1日 ～平成31年3月3 1日	報酬なし

【備考】

- 1 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。
- 2 「役職名」の欄には、理事、監事又は理事の職名を定めている場合はその職名の別を記載する。
- 3 「住所又は居所」の欄には、各役員の住所又は居所を証する書類の記載どおりに記載する。
- 4 「就任期間」の欄には、左に記載された役員全員についてそれぞれ記載し、「報酬を受けた期 間」の欄については、報酬を受けたことがある役員はその期間を、報酬を受けなかった役員については「報酬無し」とそれぞれ記載する。